

経営比較分析表

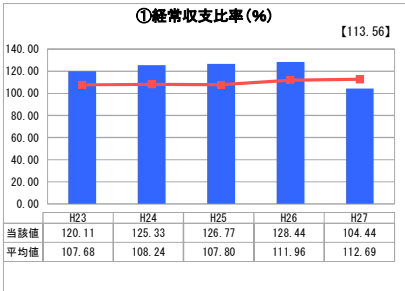
北海道 恵庭市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	75.98	99.26	4,046

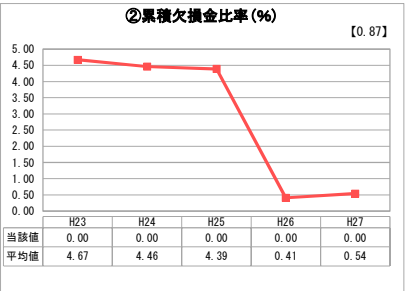
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
69,073	294.65	234.42
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
68,421	84.05	814.05

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成27年度全国平均

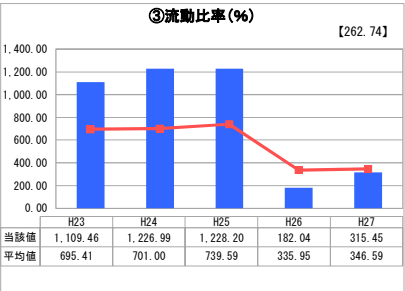
1. 経営の健全性・効率性



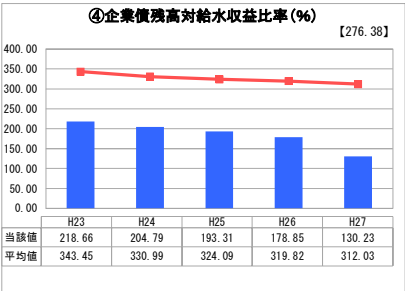
「経常損益」



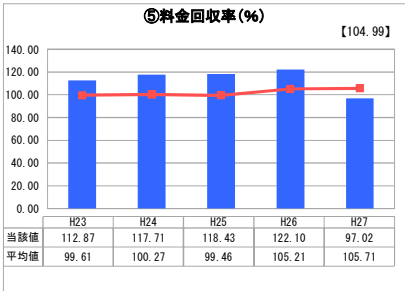
「累積欠損」



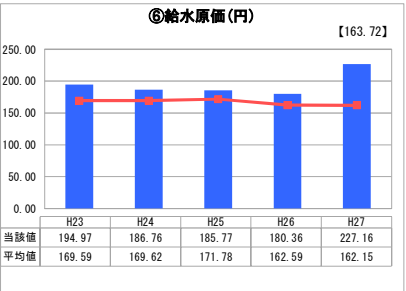
「支払能力」



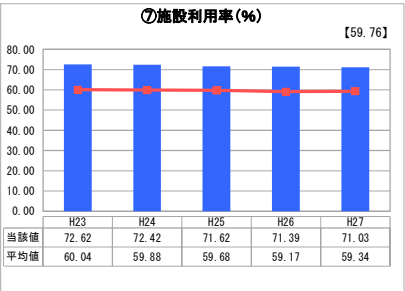
「債務残高」



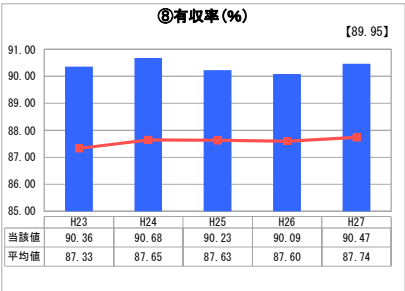
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

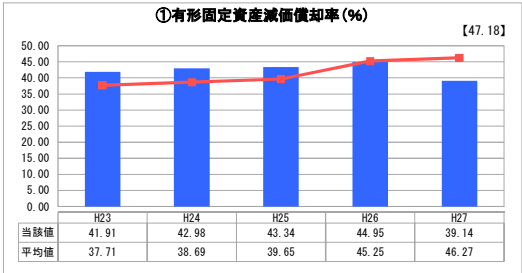


「施設の効率性」

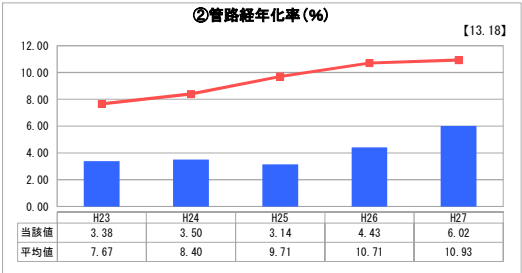


「供給した配水量の効率性」

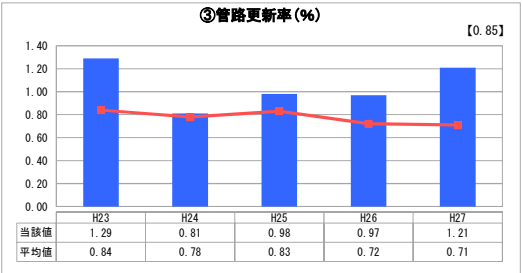
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

(1)健全性について
経常収支比率については100%を超えて推移しており、累積欠損金比率についても0%を維持していることから、健全な運営がされていると考えます。

(2)効率性について
平成27年度は、恵庭浄水場の廃止、石狩東部広域水道事業団の千歳川浄水場からの受水開始、石狩東部広域水道事業団の漁川浄水場からの受水単価の改定など、当市の水道事業を取り巻く環境が大きく変化しました。特に直営の浄水場を廃止して全受水に切り替えたことにより、受水費が大幅に増加し給水原価が上昇しています。それに伴い、料金回収率も平成26年度以前に比べて低くなっています。
今後は、これらのことに加えて節水機器の普及や人口減少などにより料金収入が減少し、さらに収支比率が悪化していくことが予想されています。
そのため、平成27年4月に策定した「恵庭市水道事業経営戦略」において今後の投資・財政状況や経営についての見通しを明らかにし、厳しい経営状況に対応できるよう努力していくところです。

2. 老朽化の状況について

管路経年化率については、現段階では類似団体平均を下回って推移しています。
しかし当市は昭和50年代以降急速に市街地が発展したため、水道管路も次々と更新時期を迎え、今後経年化率は上昇していくものと考えられます。
そのため、平成27年度に策定した水道事業管路更新計画を基本として、耐震性の低い既設管路を更新し、事業の平準化を図り計画的に整備を実施していきます。

全体総括

平成26年度までは概ね安定的で良好な経営が行われていましたが、平成27年度は水道事業を取り巻く環境が大きく変わったことにより経営状況についても大きく変化しました。
「恵庭市水道事業経営戦略」において示しているとおり、今後数年間はわずかに黒字を維持できるものの、その後は非常に厳しい経営状況となることが予想されています。経費の削減をはじめとして、管路施設整備の平準化と企業債発行、一般会計からの繰入などの経営努力とともに、適切な料金水準と料金体系を検討しながら、経営状況が急激に悪化しないよう運営していきます。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の実績数を基に類似団体平均値を算出しています。